

2013年度日本数学会出版賞受賞者のことば

砂田 利一 氏

この度、日本数学会出版賞を頂いたことは、私にとってこの上もない榮譽であり、数学会はもちろんのこと、私を推薦していただいた方々に心からお礼を申し上げます。

私が所属する明治大学は、総合数理学部という数理という言葉を含む我が国で初めての学部を本年4月から東京の中野に開設しました。2013年度の出版賞受賞と、私自身が創設に関わった新しい学部が2013年度に始動したという2つの喜びにより、2013年が私にとって人生で最高の年となることは確かです。この意味でも、関係者各位に深く感謝いたします。

思い返せば、啓発書に力を入れ始めたのは、岩波の「現代数学への入門」講座のための「行列と行列式」、「幾何入門」、「曲面の幾何」の執筆が切掛けでした。それらの主題を扱った良書は既に多く存在し、「屋上屋を架す」という愚行になる危惧はありましたが、独自のストーリーを構想し、他には見られない内容を目指すことを心がけました。この経験から、啓発書執筆は苦労を伴うと同時に喜びも感じることができるとを学び、それ以来、「バナッハハタルスキーのパラドックス」、「ダイヤモンドはなぜ美しい」、「現代幾何学への道」など、数冊の本を書いてきました。

先輩諸氏の良書に前にして、おこがましい言い方なのですが、啓発書を書くということは、自らの学びの経験を披瀝するに等しいということのように思います。と言うのも、読者に理解してもらうために、自分の理解の仕方を思い出すことになるからです。もちろん、読者層は一樣ではなく、易しくしようとすれば「深さ」がない、高度な知識を盛れば「難しすぎる」というお叱りの評をいただいております。すべての読者に満足してもらうのは至難の業ですが、これからも機会があれば、この理想にできるだけ近い啓発書を書いていきたいと考えています。

ありがとうございました。

